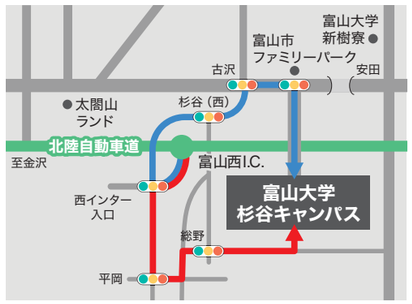


富山県へのアクセス

【東京から】
・飛行機で羽田空港から富山空港まで約1時間
・北陸新幹線でJR東京駅からJR富山駅まで約2時間10分
【大阪から】
・電車でJR大阪駅からJR富山駅まで約3時間10分
・車で名神高速道路～米原JCT～北陸自動車道～富山
【名古屋から】
・電車でJR名古屋駅からJR富山駅まで約3時間
・車で名神高速道路～一宮JCT～東海北陸自動車道～
北陸自動車道～富山
【北海道から】
・飛行機で札幌・新千歳空港から富山空港まで約1時間30分

富山駅から五福キャンパスへのアクセス

【市内電車】
・富山駅前「大学前」行き，終点「富山大学前下車／約15分
【路線バス】
・富山駅前「富山大学経由」(3番乗り場)，
「富山大学前」下車／約10分

富山駅から杉谷キャンパスへのアクセス

【路線バス】
・富山駅前「富大附属病院循環」(3番乗り場)，
「富山大学附属病院」下車／約30分

※杉谷キャンパス内の外来専用駐車場が手狭なためご来学にあたっては，
なるべく公共の交通機関等をご利用くださいますようお願いします。
※杉谷キャンパス：医学部，薬学部，
富山大学附属病院，和漢医薬学総合研究所
※五福キャンパス：人文学部，人間発達科学部，経済学部，
理学部，工学部，都市デザイン学部
※高岡キャンパス：芸術文化学部
※五艘地区　　：富山大学人間発達科学部附属学校園
※寺町地区　　：国際交流会館，新樹寮

富山大学ウェブサイト
入試資料請求

YouTube 公式チャンネル

URL: http://www.med.u-toyama.ac.jp

富山大学　医学部
〒930-0194　富山県富山市杉谷2630番地
Tel. 076-434-2281（代）

入学試験等に関するお問合せは
医薬系学務課入試担当
Tel. 076-434-7138
E-mail：nyuushi@adm.u-toyama.ac.jp

※掲載情報は2020年4月現在のものです。最新情報はWebサイトにてご確認いただけます。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

学部案内
2021
富山大学 医学部
University of Toyama : School of Medicine

医学科
看護学科

おもしろい大学

富山大学杉谷キャンパス全景

沿　革

再編・統合前　富山医科薬科大学	
昭和50(1975)年	富山医科薬科大学設置 医学部医学科設置
昭和51(1976)年	薬学部設置（旧・富山大学より移行）
昭和53(1978)年	和漢薬研究所（現：和漢医薬学総合研究所）設置（富山大学より移行） 大学院薬学研究科（博士課程）設置
昭和54(1979)年	附属病院設置・開院
昭和57(1982)年	大学院医学研究科博士課程（生理系専攻，生化学専攻，形態系専攻，環境系専攻）設置
平成 5 (1993)年	医学部看護学科設置
平成 6 (1994)年	附属病院が特定機能病院に承認
平成 9 (1997)年	大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）設置
平成15(2003)年	大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻）設置
平成16(2004)年	大学院医学系研究科博士課程（認知・情動脳科学専攻）設置 医科学専攻と認知・情動脳科学専攻の2専攻に改組
再編・統合後　富山大学	
平成17(2005)年	旧・富山大学及び旧・高岡短期大学と再編・統合し，新・富山大学（人文学部，人間発達科学部，経済学部，理学部，医学部，薬学部，工学部，芸術文化学部）となる
平成18(2006)年	大学院薬学研究科，大学院医学系研究科，大学院理工学研究科を統合・改組し，大学院生命融合科学教育部，大学院医学薬学教育部，大学院理工学教育部設置
平成20(2008)年	附属病院専門医養成支援センター設置
平成22(2010)年	附属病院が富山県がん診療人材育成拠点病院に指定
平成27(2015)年	大学院医学薬学教育部博士後期課程（看護学専攻）設置 医学教育センター設置 医学部創立40周年

c o n t e n t s

02　医学部長からのメッセージ
03　国際認証について

GUIDANCE

04　富山大学医学部における多職種連携教育
06　医学科カリキュラムの特徴
08　看護学科カリキュラムの特徴
10　基礎医学の立場から
12　臨床医学の立場から
14　社会医学の立場から
16　看護学の立場から
18　病院長からのメッセージ

20　先輩からのメッセージ　医学科
22　先輩からのメッセージ　看護学科
24　入学状況，入試情報，入学者の出身地
25　国家試験合格状況，卒業者の進路，大学院の構成

「東西の知」を育み「慈愛の精神」を培う医療人教育を実践します

医学部長

足 立 雄 一

富山大学医学部の歴史

本学医学部は，富山県民の強い要望により1975年（昭和50年）に北アルプスを一望できる丘陵（現，杉谷キャンパス）に富山医科薬科大学医学部として創設されました。その後，1993年に県内初の看護系大学として看護学科が新設され，2005年には旧富山大学ならびに高岡短期大学と統合され，新たな富山大学医学部として生まれ変わりました。そこでは，「薬の富山」としての300年の歴史を背景に薬学部ならびに和漢薬研究所（現，和漢医薬学総合研究所）と密接に連携して東西医学の統合を目指した特徴ある教育・研究・臨床を行っています。また，杉谷キャンパスの一角にある記念碑に建学理念である「里仁為美」という言葉が刻まれています。これは論語の一節で「仁におるを美となす」と読み，その意味は「他人を慈しむことを心の拠りどころにすることが最も良い」と理解されます。本学医学部では，この理念に基づいて慈愛の精神を持って全人的な医療を実践できる医療人の育成に努めています。

医学部の教育と研究

医学科は6年，看護学科は4年の一貫教育を行っています。1年次は，2018年度から五福キャンパスで他学部生と一緒に教養教育を学修するようになりました。また，医学部（医学科・看護学科）と薬学部（薬学科・創薬科学科）の学生がいっしょに学修する「医療学入門」や「新入生研修」を開講し，医療人となるためのオリエンテーションを実施しています。2年次には「和漢医薬学入門」を開講し，伝統的な東洋医学を早期に学べる特徴のあるカリキュラムも用意し，東洋医学と西洋医学の先端的医学知識を身につけた意欲的な学生の育成を行っています。臨床に関する教育においては，地域医療に貢献できる人材育成に加え，新専門医制度に対応した専門医養成，専門看護師養成に力を入れています。また，国際性を身につけるために在学中から海外で臨床研修ができる制度を設けています。さらに，医学科では，2015年度医学教育における分野別認証評価（国際認証）を受審し，国際基準に適合していると2018年3月に認定されました。また，看護学科でも受審準備中です。

研究面においては，生命科学分野で世界トップレベルの研究を展開し，脳神経科学領域でも，世界から注目される研究成果を次々に発表しています。大学院においては，特徴ある東西医学融合研究に魅せられて，海外から多くの学生が本学に留学し，国際研究交流も活発に進んでいます。

入学定員

医学科の募集人員は，一般選抜が80名，富山県内の高等学校出身者を対象とした学校推薦型選抜「地域枠」が15名以内及び富山県内の高等学校出身者（卒業後2年以内を含む）等を対象とし，医師免許取得後に一定期間富山県内で診療に従事することを要件とした自己推薦入試「富山県特別枠」が10名です。看護学科の募集人員は，一般選抜が60名及び学校推薦型選抜が20名です。この他に，帰国生徒入試（医学科・看護学科），社会人入試（看護学科）及び私費外国人留学生入試（医学科・看護学科）がそれぞれ若干名となっています。また，編入学として，医学科学士入学(第2年次編入学）の5名及び看護学科第3年次編入学の10名があります。

大学院の募集人員は，医科学専攻（修士課程）15名，看護学専攻（博士前期課程）16名，生命・臨床医学専攻（博士課程）18名，東西統合医学専攻（博士課程）7名，認知・情動脳科学専攻（博士課程）9名及び看護学専攻（博士後期課程）3名です。

富山県には，四季折々の変化に富む豊穣の平野があり，3000m級の北アルプスから水深1000mに落ち込む富山湾があります。この素晴らしい自然環境のもとで，勉学や課外活動などを通して青春を謳歌してはいかがでしょうか。医学部では，「東西の知」の基礎をしっかり身につけ，「慈愛の精神」を培う医療人教育を提供しています。皆さんと杉谷キャンパスでお会いできることを楽しみにしております。

富山大学の医学教育は国際基準に適合

—地域と世界で活躍できる医療人の育成を目指して—

全国で7番目，北陸3県で初の認定

本学の医学科は，日本医学教育評価機構（JACME）による分野別評価を受審し，2018年3月26日付で国際基準に適合していると認定されました。富山大学は，全国で7番目に審査を受け，認定は北陸3県で初めてです。

分野別評価は，米国の外国人医師卒後教育委員会（ECFMG）が「2023年以降，国際基準で認定を受けた医学部の卒業生に限り，米国医師国家試験の受験資格を与える」と通告したこと（医学教育「2023年問題」）を契機に，日本医学教育評価機構が国際基準に準拠して審査を実施しているものです。

審査では，医学部の使命や教育プログラム，管理運営などの9領域72項目について，自己点検書による書類審査と実地調査により評価を受けました。その結果，最新の知識と技能，および，高い倫理観と温かい人間性を備えた社会貢献のできる医師や医学者を育てるために，教職員が熱意をもって医学教育を実践している点が高く評価されました。

医学教育の質保証

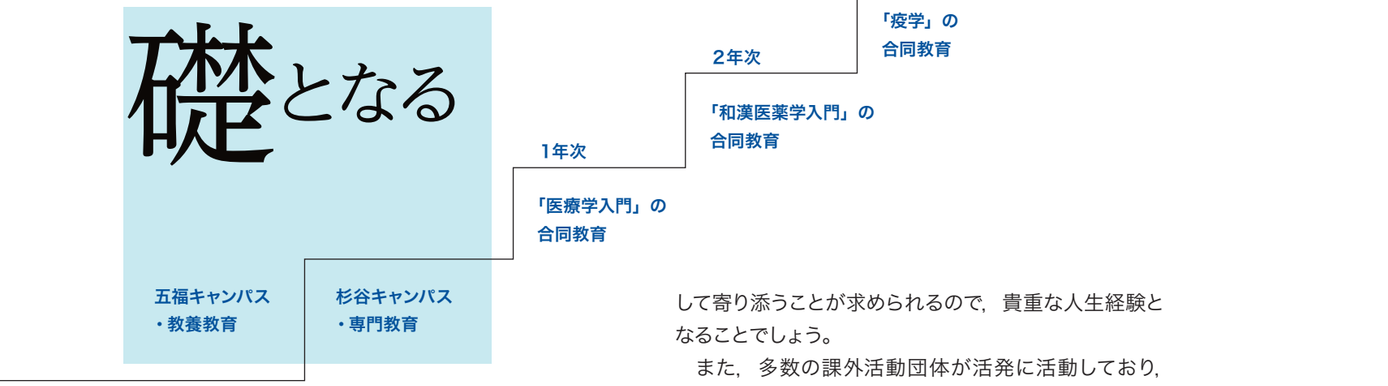
ECFMGによる通告の背景には，新興国による医学部の乱立があります。そのため，米国では，米国内で働く外国人医師の質を担保するために，国際基準に適合した医学部を認定して，認定された医学部の卒業生のみに米国医師国家試験の受験資格を与えることにしたのです。こうした動きは，世界に波及することが見込まれています。したがって，今後，非認定の医学部の卒業生は，医師としての海外での活動が米国に限らず制限される可能性もあります。その意味で，富山大学の医学教育が国際基準に適合しているとの認定を受けたことは，意義が大きいと考えています。現在，認定更新に向けた医学教育改革が進行中です。

看護学教育の質保証

医学教育の質保証の動向を受けて，看護学教育の質保証のための認証団体である日本看護学教育評価機構（JABNE）が2018年に設立されました。本学の看護学科は，2025年に分野別評価の審査を受ける予定としており，現在，認定に向けた看護学教育改革が進行中です。

私達はグローバル・スタンダードの医学教育や看護学教育を実施することで，地域と世界で活躍できる医療人を育成していきたいと考えています。

総合大学の強みを生かした医学・看護学・薬学の合同教育が将来の多職種連携の礎となる



合同教育による多職種連携能力の育成

現代医療の特徴の１つは，専門分化と多職種連携です。すなわち，個々の分野がより専門性の高い医療を提供するとともに，医師・看護師・薬剤師等の専門職が連携してチーム医療を展開することが求められています。

こうした多職種連携能力を身につけるために，富山大学医学部では総合大学の強みを生かした入学から卒業まで継続した合同教育を実施しています。

「教養教育」における９学部の合同教育（1 年次）

富山大学は９学部（人文学部，経済学部，人間発達科学部，理学部，工学部，都市デザイン学部，医学部，薬学部，芸術文化学部）からなる総合大学であり，約8000 名の学部生と約1100 名の大学院生が３つのキャンパスで勉学に励んでいます。

すべての学部の１年次生は，１週間のうち３日間は五福キャンパスで他学部の学生と一緒に教養教育を履修します。したがって，学部を超えて多様な価値観と関心事を持つ学生と交流を深めることができます。医療人には，多様な価値観と関心事を持つ患者さんを理解して寄り添うことが求められるので，貴重な人生経験となることでしょう。

また，多数の課外活動団体が活発に活動しており，課外活動で培われた人間関係は一生の宝になります。

「医療学入門」における医学・看護学・薬学の合同教育（1 年次）

医学・看護学・薬学の専門教育は，杉谷キャンパスで行われます。そこで，多職種連携能力を涵養するために，１年次の専門教育である「医療学入門」では，医学・看護学・薬学の学生約 300 名を対象とした合同教育が行われています。

「医療学入門」では，医療倫理，患者・医療従事者関係，コミュニケーション技法，障害者･高齢者の医療，薬害，医療と地域社会などを合同で学修します。また，新入生医療学研修（立山研修），心肺蘇生講習会，介護体験実習，富山県立イタイイタイ病資料館見学などを行います。

これらの多岐にわたる領域の合同教育により，医学・看護学・薬学の専門職の役割を考えます。また，講義や実習だけではなく，ロールプレイ，グループ学修，全体討論といった様々な経験を通じて，「よき医療人（プロフェッショナル）」となるための知識，技能，態度を修得します。

医療学入門

新入生医療学研修

「和漢医薬学入門」における医学・看護学・薬学の合同教育（2 年次）

富山大学の特徴の１つは，「東西医学の融合」を目指した取り組みが盛んなことです。実際，富山大学には和漢医薬学総合研究所という歴史ある研究所が和漢医薬学に関する世界水準の研究を行っており，また，附属病院では和漢診療科が東洋医学と西洋医学を融合した医療を実践しています。

このような富山大学の特徴を生かして，医学･看護学･薬学の２年次の合同教育として「和漢医薬学入門」が開講されています。漢方薬，漢方診断，漢方治療などを講義と実習により学修します。富山大学の卒業生は，西洋医学だけではなく東洋医学にもとづく医療が実践できます。富山大学で学ぶ大きなメリットの1つと言えます。

また，看護学科２年次の「成人看護論Ⅰ」では，看護学科の教員と医学科の教員が連携して，講義や演習を行います。その結果，看護学と医学の考え方の共通点と相違点を踏まえた将来の多職種連携の素養が涵養されます。

「疫学」における医学・看護学の合同教育（3 年次）

医師や看護師は，科学的根拠（エビデンス）にもとづいて患者さんに最善を尽くすことが求められます。これを医学では「科学的根拠にもとづいた医療（EBM）」，看護学では「科学的根拠にもとづいた看護（EBN）」と言います。「疫学」は，人を対象とした研究にもとづくエビデンスを提供する学問です。３年次の合同教育である「疫学」では，医学研究や看護学研究における調査手法，分析手法，結果の解釈を，講義と演習により学修します。その結果，医療や看護に関する様々な情報に接したときに，患者さんに対して適切に適用することができるようになります。

また，看護学科３年次の「老年看護学総論」では，高齢者とその家族の健康及び生活の質を高めるため，多職種連携によるチームアプローチを用いた老年看護の役割について深く考える機会が設けられています。

保健・医療・福祉・介護の現場での多職種連携教育（4 年次〜）

医学科は，４年次後期から６年次前期まで，富山大学附属病院や地域の中核病院等での臨床実習の中で，医療チームの一員として，医師，看護師，薬剤師，介護士，事務職員などとの多職種連携による医療経験を多く積むことができます。医師を目指すものとしての専門職意識が醸成されます。

看護学科は，４年次少し前から附属病院や地域の関連施設における臨地実習で，多職種連携の実際を経験します。全人的な看護の役割と責務を認識し，看護師，保健師，助産師を目指す者としての専門職意識が醸成されます。

このように，富山大学の医学・看護学・薬学の学生には，入学から卒業までの合同教育を通じて多職種連携能力を涵養する機会があります。豊かな人間関係を築きながら，専門職としての自己に目覚め，保健･医療･福祉の幅広い観点から地域社会や国際社会に貢献できる意思と能力を身に付けることができる最適な環境が提供されています。

CHECK

杉谷キャンパス　課外活動紹介

<体育系>ITFテコンドー部／競技スキー部／準硬式野球部／弓道部／剣道部／男子バスケットボール部／女子軟式野球部／ハンドボール部／卓球部／女子バスケットボール部／山岳部／養神館合気道部／ソフトテニス部／女子バレーボール部／武田流中村派合気道部／バドミントン部／硬式テニス部／水泳部／サッカー部／ウインドサーフィン部／ラグビー部／男子バレーボール部／陸上競技部／ストリートダンス部／ゴルフ部／富山大学杉谷キャンパス釣り部／スキューバダイビング部 WEDIT／競技ダンス部
<文化系>管弦楽団／鼓笛／軽音楽部／ギターマンドリンクラブ／小児科訪問サークル・青い鳥／コーラス部／ボランティア同好会／三曲会／ウインドアンサンブル／写真部／茶道部／美術部／ESS／救急医学勉強会SALT／国際医療研究会／書道部／peer☆yacha／富山大学かるた部／囲碁・将棋部／グルメ研究会／医学薬学祭実行委員会／医薬ジャズ研究部

富　山　大　学　医　学　部

医学科カリキュラムの特徴

6年一貫教育により，高度な知識と技術をもった人間性豊かな医師や医学者を養成します

医学科長　関根　道和

❶スチューデント・ドクター認定証授与式
❷シミュレーション機器を用いた診断学実習
❸学生による病院経営をテーマとした学会発表
❹「研究医養成プログラム」の学生の研究が国際誌Journal of Epidemiologyに掲載

初年次教育（1年次前期〜）

本学の医学教育の特徴は，入学から卒業まで一貫性をもって医学を学修する6年一貫教育と総合大学の強みを生かした多職種連携教育です。

たとえば，1年次前期の「医療学入門」においては，医療を取り巻く諸問題を，看護学生や薬学生と一緒にグループワークを通して考える多職種連携教育を実施しています。現代の医療では，医師，薬剤師，看護師などの多職種による連携が求められており，本学では1年次よりその素養を涵養します。

また，1年次後期の「医学概論」では，医学部の教授陣による最新の医学をオムニバス形式で幅広く学修します。また，自らの医師としてのキャリア形成を考えます。また，希望者は「ニュージーランド短期語学研修プログラム」に参加して海外経験を積むことができます。

大学によっては，1年次は教養教育のみで，2年次から専門教育を実施しています。そのような大学では，学生の医学に対する学習意欲が，教養教育を受講している間に低下してしまう場合もあるようです。本学では，教養教育の学修と並行して入学直後から専門教育を行うことにより，医学に対する学習意欲を維持できるようにカリキュラムを構築しています。

基礎医学教育（1年次後期〜）

医学の専門教育は，基礎医学教育，臨床医学教育，社会医学教育の3つに分類されます。

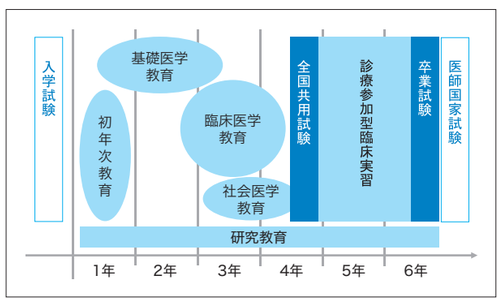
基礎医学教育は，1年次後期から始まります。基礎医学教育では，人体の正常な構造と機能，疾病の原因や生体防御の仕組み，異常な構造と機能について学修します。具体的には，解剖学，組織学，生理学，分子生物学，微生物学（ウイルス学・細菌学・真菌学・原虫学・寄生虫学），薬理学，病理学，行動科学，放射線基礎医学などを講義と実習形式で学修します。

また，基礎医学の統合教育を実施しており，基礎医学の各分野における相互の関係性や臨床医学との関係性についても理解が深まるようにしています。

臨床医学教育（3年次前期〜）

臨床医学教育は，3年次前期から始まります。臨床医学教育では，各種疾病の「診断」と「治療」を学修します。臨床医学教育における本学の特徴は，基礎医学と臨床医学の教員が連携・協働した統合型カリキュラムによって，疾病別に病態，診断，治療を学修することです。たとえば，糖尿病などの「内分泌疾患」の講義では，病理学の教員が内分泌疾患の病態について概説します。次に，内科学と小児科学の教員が，成人と小児の内分泌疾患の診断と治療について概説します。そして，外科学の教員が内分泌疾患の外科的手術を概説することで，内分泌疾患を統合して学修します。

大学によっては，病理学，内科学，小児科学，外科学のそれぞれの講座で関連する疾患を教育するという「講座中心」の臨床医学教育を実施している大学もあります。本学では講座の垣根を越えた「疾病中心」の教育を行っているのが特徴であり，臨床医学を統合して修得できます。



医学科カリキュラム概要

社会医学教育（3年次後期〜）

社会医学教育は，3年次後期から始まります。臨床医学は病める個人における健康水準の向上を目指す医学であるのに対して，社会医学は各種の社会資源と連携して社会全体の健康水準の向上を目指す医学です。具体的には，疫学，予防医学，医学統計学，公衆衛生学，救急・災害医学，病院経営学，法医学などを講義と実習形式で学修します。

社会医学は，地域社会との密接な連携や協働によって成立していることから，行政機関や医師会，地域病院等の協力も得て，日本全体や富山県における保健・医療・福祉・介護のシステムやその連携を体系的に理解します。これらの学修を通じて，地域の実情にあった保健医療の実践に必要な知識と技術を修得します。

診療参加型臨床実習（4年次後期〜）

診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）とは，学生が診療チームの一員として指導医の指導・監視のもとに知識，技術，態度を修得する実習法のことです。そのため，臨床実習を行えるだけの十分な知識，技術，態度を修得しているかを全国共用試験（コンピュータによる試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE））によって評価します。合格すると，スチューデント・ドクターの称号が与えられ，臨床実習に参加することができます。

臨床実習では，富山大学附属病院の全診療科をローテーションする実習に加えて，選択制の実習として学外病院や海外病院での実習を行います。学外病院の例としては，富山県立中央病院，富山市民病院，高岡市民病院，富山赤十字病院，富山県済生会富山病院，厚生連高岡病院などがあります。海外病院の例としては，ボストン小児病院（米国），トロント大学（カナダ），カーディフ大学（英国），リヨン大学（フランス），ルール大学（ドイツ），忠南大学（韓国）などがあります。

これらの実習を通じて，地域と世界に貢献する医師としての能力（コンピテンシー）を修得します。そして，6年次後半に実施される卒業試験に合格すると卒業が内定し，医師国家試験に合格すると医師免許が授与されます。

研究教育（1年次〜 6年次）

医師は，患者さんの診療にあたり，信頼できる情報や研究成果をもとに最善の医療を行うことが求められます。それを「科学的根拠にもとづいた医療（EBM）」とよびます。したがって，医師には医学者としての素養も求められるといえます。

本学では3年次前期に，学生が希望する基礎医学，臨床医学，社会医学の講座に所属して1ヶ月間研究を学ぶ「研究室配属」とよばれる研究教育が実施されています。そこで，文献講読，データの収集や分析，研究発表までの科学研究の一連のプロセスを学修します。

さらに研究志向の強い学生のために「研究医養成プログラム」という在学中最大6年間の研究室に所属して研究できる制度があります。実際，プログラムの学生が国内外で学会発表や論文公表をしています。また，研究医養成プログラムの修了者が本学の大学院博士課程（4年制）に進学した場合，一定の要件を満たすと3年間で博士号が取得できます。

充実した学修環境により医師免許取得を支援

医学科の修業年限は6年であり，絶えない向上心と継続した学修が不可欠です。そのため，学生を支援する様々な環境を整えています。たとえば，医学部のある杉谷キャンパスの図書館は24時間利用可能であり，多くの学生が図書館で日夜勉学に励んでいます。また，学生を構成員とする「カリキュラム委員会」が存在し，カリキュラムなどについて教員と話し合って教育を改善する仕組みがあります。また，「医師キャリアパス創造センター」では，大学の事務組織と連携・協働してカリキュラム全般の管理・運営を行うとともに，入学時から卒業時までの各種データの収集や分析を通じて教育の改善に取り組んでいます。

様々な仕組みによって充実した学修環境をつくりだし，学生の医師免許取得を支援しているのが，本学の医学教育の特徴といえます。

富　山　大　学　医　学　部

看護学科カリキュラムの特徴

現代社会に生きる人間の「からだ」「こころ」「くらし」を見つめなおし，多様性とマイノリティを理解できる医療者を養成します

看護学科長　金森　昌彦

❶❷❸実習風景
❹看護学科全教員

健康と看護学の課題

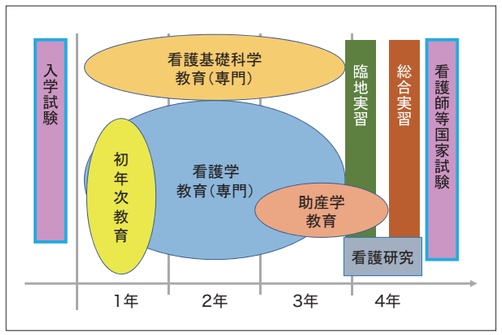
近年，情報技術の急速な進歩を背景に，AI（Artificial Intelligence）やIoT（Internet of Things）が登場し，医療界もポストヒューマンの時代になるかもしれないと予想されています。つまり人間が考える前にすでにロボットがその答えをだしているかもしれないのです。一方で，どんなに社会が変化しても人々の健康と幸福を支援するという看護学の原点は変わりません。このような今こそ，多様で複雑な患者さんの「からだ」と「こころ」に対峙すべき医療人の本質を見直す必要に迫られているのではないでしょうか。原点は同じでも大学教育ではこれまでと同じことを繰り返すのではない，常に新たなことを創造していくことが求められます。そして，この創造は社会の変化に密に対応していなければならないということです。これらに触れて自ら考えていくことが大学での学びであり，新たな展開への持続ということだと思います。

1年次教育

初年次の教養教育は主として五福キャンパスにおいて全学共通のカリキュラムを履修することから始まります。ここでは9学部の1年次が各自の選択する科目で授業を受けます。また，全学共通の部活動やサークルもありますので，3つのキャンパスでの学生間交流もでき，お互いの意識を高める機会も持てます。富山大学の学部学生数は全学年で8000人以上です。北陸出身の学生さんが比較的多いとはいえ，看護学科においてもその出身県は全国に広がっているのが特徴です。言葉や郷土の文化の差異もあり，幅広い交友が広がることは学生生活の大きな魅力です。医療学入門は医薬合同の講義で，杉谷キャンパスにて行われ，医療者としての共通の理解を出発点におき，将来の基礎を築きます。また1年次のうちから看護基礎科学や専門科目（看護学原論，看護対象論，看護方法論）が開講し，2年次にかけて「からだ」の授業を中心に学びます。

2年次教育

2年次以降は杉谷キャンパスでの看護専門科目の授業が始まります。疾病学,薬理学,微生物学に加えて,成人看護学,小児看護学，母性看護学，老年看護学，精神看護学の看護領域（総論および各論）が中心です。また医学科との合同授業として和漢医薬学入門が実施され，東西医学の融合を目指す本学の理念を学びます。本学では臨床医学の授業が多いのも特徴で，大学病院の専門診療科の医師がすべて行っているため，実践的かつ最新の講義が受けられます。すべての授業が杉谷キャンパスで実施されるため，課外活動にも時間がかけやすくなり充実します。体育系部活動では2年次後半から3年次にかけて選手ならびに運営の主軸となり，新たな人間形成の場にもなっていきます。同様な時期に精神看護学総論が始まり，3年次にかけて精神臨床医学など「こころ」の学びが増えてきます。



看護学科カリキュラム概要

3年次教育

3年次は看護の専門科目授業が充実するとともに，地域看護学や在宅看護論などが加わり，授業は「くらし」の視点に移ってきます。看護領域と保健領域の全分野を網羅するプロフェッショナルになるための積み重ね教育です。それらの知識は3年次の後半2月から開始される臨地実習に繋がっていきます。また助産コースの選抜は3年次に行われ，その講義は後半から実施されます。

4年次教育

臨地実習のローテーションは4年次前半まで続き，ほぼ実習中心のカリキュラムとなりますが，配属された講座別に看護研究も開始され，年内には研究論文集として製本されます。さらに後半には総合実習が組まれています。

このようなステップで，富山大学の看護学科は4年間で看護師，保健師，助産師（選抜制）の免許が同時にとれるシステムになっています。国家試験はいずれもほぼ全員の学生が合格してきました。そして，自負できるアカデミックなナースとして社会に貢献できる医療者を目指します。

卒業後のアイデンティティ

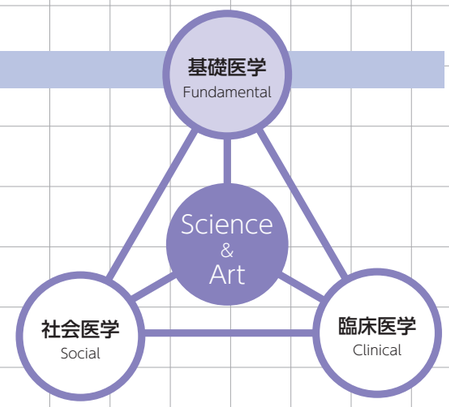
これまで富山大学杉谷キャンパスは「東西医学の融合」を理念に歩んできました。看護学科が設立されて今年で27年目を迎えたわけですが，看護学科では，和漢医薬学入門や東洋の知と看護などの授業科目を通して，東洋医学的な発想や知識を学べる大学として最も力を入れています。それは治癒できない慢性的な疾病をもつ患者さん，あるいは生命の限界が迫りつつある患者さんに対しての全人的なケア力の向上に役立ってきたと言えます。個々の患者さんがより幸せな人生を歩めるサポートができる人材に卒業生は育っています。また全員が保健師受験資格を得るための学修を行うことで，行政への就職の選択肢も広がり，在宅看護や地域での保健師活動につながっています。目指すゴールはそれぞれの価値観を生かせるものになっていきます。

そのため卒業後の進路選択肢も豊富であることが大きな強みです。附属病院を中心とした就職という道の他にも，高度な看護実践を目指す大学院博士前期課程，博士後期課程，専門看護師（がん看護CNS，母性看護CNS）など極めるべき専門コースは多く，学部から連続してチャレンジしたい学生さんには大学院の入学金免除などの制度も用意しています。海外での医療支援の役割を担う卒業生もいます。今の自分に不安を抱えるより，将来の夢をこのキャンパスで描き，新たな自分に挑戦しようではありませんか。杉谷キャンパスでマルチな素養を身に着け，相互理解の中から，自分のアイデンティティを育ててみませんか?

社会支援につながる看護

2015年に国連が取りまとめたSDGs（Sustainable Development Goals）という言葉は「持続可能な開発目標」と訳されており，社会の再構築を目指しています。日本は少子高齢化社会を迎え，さまざまな面で格差が生じた現在，もっと社会支援に目を向けなければなりません。そのためにはオープン・マインドであることです。富山大学ヘルン文庫にある小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の人生は「自分の五感を解き放ち，他者に対して温かな眼差しを持つ。そして他者への共感と共鳴」と解釈されています。まさに看護ケアに通じる心のあり方だと思いませんか。

基礎医学の立場から

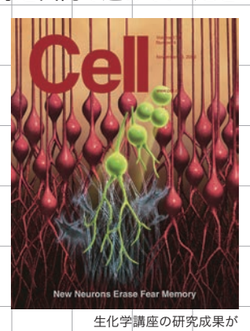


医療と基礎医学

医学部の使命は良い医者を育てることに加えて，優れた医学研究を行い，優れた医学研究者を育てることです。研究によって新しい原理を発見できると，医療の進歩，人類の幸福に貢献します。医学の基礎研究は，人間のからだの仕組みの理解と病気が起こるメカニズムの解明に不可欠であり，基礎研究が人間の病気の解明，治療法の開発に貢献した例は数えきれません。最近では，本庶佑博士のノーベル賞の受賞が良い例です。試験管内で得られた研究結果をもとに，患者自身の免疫を活性化させて，がんに対抗させる抗体（オプジーボ）を開発し，マウスを使った研究を経て，臨床応用に発展し，多くのがん患者に大きな希望を与えました。

富山大学の基礎医学

富山大学の基礎医学系の講座には，現在，解剖学，統合神経科学，生化学，再生医学，病理診断学，病態・病理学，感染予防医学，免疫学，微生物学，分子医科薬理学，システム情動科学，分子神経科学，遺伝子発現制御学，行動生理学の講座があり，教職員が学生の教育に当たりながら活発に研究を行っています。特に脳・神経系の仕組みは未知の部分が多く，富山大学医学部では，脳関連の研究に特に力を注いでいます。2020 年度より生化学講座の井ノ口馨卓越教授をセンター長として「アイドリング脳科学研究センター」が設置され，睡眠や無意識状態での脳の働きとそのメカニズムの先駆的な研究が進められています。その他の分野においても活発に研究が行われており，これらの成果は国内外の学会や専門雑誌に発表され，一部は，国際的トップジャーナルである Cell, Science, Nature などにも掲載され，国際的にも高く評価されています。医学部がある杉谷キャンパスでは，医学部のほかに，薬学部，和漢医薬学総合研究所が併設されている利点を生かし共同研究が活発に行われています。さらに，キャンパスの垣根を越えた工学部，理学部，その他の学部との共同研究も進んでいます。人間のからだの仕組みやはたらき，病気の研究は医学部だけではとうてい進めていけるものではなく，数学，心理学，薬学，工学など様々な分野の専門家と共同で進めていくことが理想的で，富山大学医学部では理想的な形で基礎医学研究が進んでいます。また，このような基礎医学研究は，臨床への応用を目指しており，基礎の研究室と臨床の研究室との共同研究も活発に行われています。



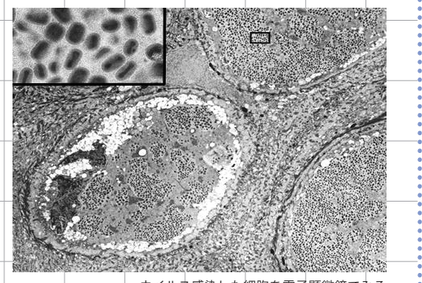
生化学講座の研究成果が
米国科学雑誌の表紙を飾る

富山大学の基礎医学を支える環境

現代の医学研究には，将来の臨床応用を見据えて，種々の条件を可能な限りコントロールした精度の高い動物実験が必要であり，また，様々な最先端技術を駆使した解析が必要不可欠です。このような実験に必要な機器は，非常に高額で，個々の講座で購入することはできません。富山大学杉谷キャンパスにはこうした施設や機器を共同利用する場を提供する生命科学先端研究支援ユニットがあり，動物実験施設，分子・構造解析施設，遺伝子実験施設，アイソトープ実験施設があります。

動物実験施設では，一般の実験用動物のほか，遺伝子を改変した動物，特定の微生物や寄生虫がいない清浄度の高い動物などが飼育され，研究に用いられています。また，微生物の感染の影響をみるための感染動物実験室や，人工授精やゲノム編集などを行う胚操作室，マウスの行動を調べる行動実験室等が設置されています。近年，動物実験に対しては動物福祉の観点から，動物の受ける苦痛を減らし，より少ない動物の犠牲でより大きな成果をあげる努力が求められており，各研究者はもとより，動物実験施設としても，この点に配慮した運営を行っています。

分子・構造解析施設には，各種の分離・分析装置から工作機器にいたるまで，様々な最新鋭の機器が設置されています。例えば，ノーベル賞を受賞した富山県出身の田中耕一博士が開発した質量分析装置は，微量な物質がどのような物質であるかの同定に用いられています。そのほかに，分子と分子の相互作用を解析する装置（表面プラズモン共鳴検出装置），分子の構造を解析する装置（核磁気共鳴装置やX線構造解析装置）などが設置されており，物質や細胞の分離・解析のために，学内の研究者に広く利用されています。


ウイルス感染した細胞を電子顕微鏡でみる

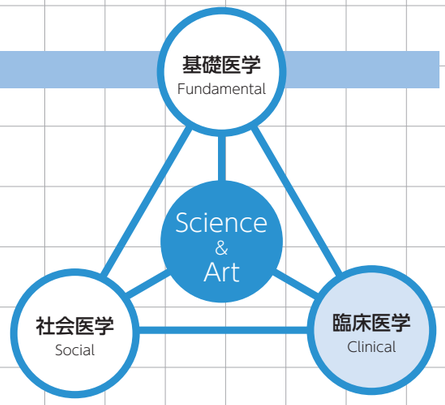
遺伝子実験施設では，最近急速に発達してきたゲノム編集の技術やそのほかの遺伝子組換え技術を用いて，遺伝子を改変したり，遺伝情報を読み取ったりすることにより，正常な人のからだの働きの仕組みや病気の成り立ちを知り，治療に役立つ情報を得るための研究が行われています。

アイソトープ実験施設では，放射線同位元素（RI）を用いた研究が行われています。放射能をもつ RI の使用は法令で厳しく規制されており，本キャンパスでは，すべてアイソトープ実験施設内で行われています。RI を用いた実験は非常に感度が高く，ごく微量な物質を使う研究に利用されています。

生命科学の進歩と若い力

今日，生命科学（Life Science）の研究は，再生医学やゲノム編集の技術の発展により，新たな段階に入りつつあります。これまでに得られてきた基礎研究の結果をもとに，細胞や動物を人為的に改変することにより，からだの中でどのようなことが起こるかを，簡単に解析できる時代になってきました。基礎研究と臨床研究は車の両輪であり，どちらが欠けても前へ進みません。研究の成果をあげるための道のりは単純なものではなく，多くの研究者達のたゆまぬ地道な研究によって進められていきます。研究の推進には政府や民間団体等からの財政的援助はもちろん必要ですが，未知の分野に突き進んでいく意気込みをもった若い優秀な人材の参入が不可欠です。杉谷キャンパスでは，医学の進歩のため，大きな希望・目標に向かって日夜研究が続けられています。夢をもった若い皆さんがこの分野にも進出してくれることを熱望しています。

臨床医学の立場から



特色ある臨床医学教育と研修

医学科では，入学早々の１年次に「早期基礎臨床体験実習」として，附属病院での実際の診療・検査・手術などを見学することにより，将来の良き医療人としての意識を高めてもらっています。同じく１年次に，医療人となるための基本を学ぶ「医療学入門」を設けています。２年次には「和漢医薬学入門」があります。「医療学入門」と「和漢医薬学入門」は，医学部（医学科・看護学科）と薬学部(薬学科･創薬科学科）の学生がいっしょに学ぶ富山大学の特色あるカリキュラムです。３年次からは，臓器別・系統別の講義が主体になりますが，４年次の終わり頃からは附属病院での臨床実習が始まります。附属病院のみでなく，富山県内の中核病院でも実習できることになっています。

医師免許取得後２年間の初期臨床研修では，一人ひとりのニーズに合わせて，附属病院あるいは協力病院での研修プログラムを提供しています。大学病院の特長の一つとして，富山大学附属病院も多種にわたる学会の教育施設に認定されていますが，目指す専門医に特化したプログラムを自分自身で組むことができます。個々の初期研修医の希望に添った研修ができるよう，卒後臨床研修センターがサポートしています。

卒後３年目以降の専門医養成プログラム（後期臨床研修）では，基本的には診療科に所属して研修を行いますが，例えば，診療能力をさらに向上させ優れた専門医を目指す，あるいは地域医療に貢献できる総合医を目指す，さらには研究にも力を注ぐ医師を目指すなど，将来さまざまな方向に進む若手医師のキャリアプランニングをサポートしています。

以上のように，卒前から卒後まで，一貫した臨床医学教育・研修が受けられるよう，富山大学では医学部・附属病院をあげて取り組んでいます。

学生も参加するカンファレンス

手術室での研修医指導

充実した講座と診療科

医学科の臨床講座には，糖尿病・代謝・内分泌，リウマチ・膠原病，呼吸器・アレルギー疾患を扱う内科学（第一），循環器・腎臓疾患を扱う内科学（第二），消化器・血液疾患を扱う内科学（第三），皮膚科学，小児科学，神経精神医学，放射線診断・治療学，循環器・呼吸器疾患を扱う外科学（第一），消化器・乳腺・内分泌・小児外科疾患を扱う外科学（第二），脳神経外科学，整形外科・運動器病学，産科婦人科学，眼科学，耳鼻咽喉科頭頸部外科学，腎泌尿器科学，麻酔科学，歯科口腔外科学，臨床分子病態検査学，和漢診療学，危機管理医学・医療安全学，臨床腫瘍学があります。附属病院には，これらの講座に対応する診療科に加えて，脳神経内科，感染症科，形成再建外科・美容外科，リハビリテーション科，総合診療部，検査・輸血細胞治療部，手術部，放射線部などがあります。附属病院の病床数は 612 床で，診療はもちろん，教育や研究にも熱心に取り組んでいます。

最新の医療機器を活用した手術室

先端医療を学べる附属病院

附属病院では，先端医療あるいは質の高い医療を提供するため，診療科の垣根を越えた“センター”を多く設置しています。循環器センター，膵臓･胆道センター，包括的脳卒中センター，周産母子センター，総合感染症センター，痛みセンター，糖尿病センター，災害・救命センター，集学的がん診療センター，がんゲノム医療推進センター，再生医療センター，乳がん先端治療・乳房再建センターの各センターでは，県内外の患者さんを積極的に受け入れ診療にあたっています。

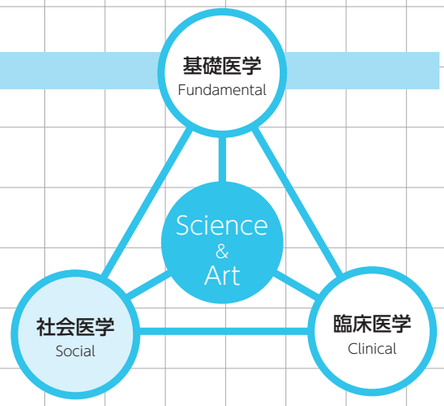
最新の高度な医療機器も導入しています。例えば，富山県内で初めて“ダ・ヴィンチ”という医療ロボットを使うことで，従来の腹腔鏡手術に比べて繊細で操作が容易で，より安全・適確な手術を行うことができるようになり，前立腺癌，腎癌，膀胱癌，直腸癌などの治療に応用しています。

大動脈弁狭窄症という心臓の病気がありますが，高齢化に伴い患者さんが増えており，大きな手術に耐えられない，あるいは手術リスクが高い患者さんに対して，循環器センターではカテーテルを用いた体への負担が小さい“経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）”という治療を行っています。

膵臓・胆道センターでは，消化器内科と消化器外科のエキスパートが密接な連携・協力により，難治性の膵癌の治療に取り組んでおり，県内外から患者さんが治療に訪れています。

以上のような特色ある富山大学医学部医学科と附属病院で，未来の医学・医療の発展と地域医療の充実のために，ともに学んでみませんか。若い皆さんの参加を待っています。

“ダ・ヴィンチ”の操作風景



社会医学の立場から
～社会の健康～

社会医学とは

日本が，世界有数の長寿国になれたのは，戦後の日本社会において教育水準や経済水準の平準化が進められたことにあると考えられています。実際，欧米諸国の中で，平等主義的な政策をとる北欧諸国は，自由主義的な政策をとる米国や英国よりも，社会経済格差が小さく，教育水準が高く，乳幼児死亡率が低く，平均寿命が長いことが知られています。このように，人の健康は，社会の仕組みや人々の生活と密接な関係にあります。

社会医学は，人文社会系を含めた広範な学問分野との連携・協働によって，社会の仕組みや人々の生活の改善を通じて，疾病の発生を予防し，「平均寿命」に代表されるような社会全体の健康水準の向上を目指しています。また，保健・医療・福祉・介護における社会制度の構築や管理・運営を通じて，安全で安心な社会の構築に貢献しています。

人々の生活環境は絶えず変化します。そのため，社会医学が対象とする内容も，時代とともに変化してきました。たとえば，戦後間もないころは，貧困や劣悪な生活環境を原因とする結核などの感染症が多く，その対策が中心でした。その後，日本は，高度経済成長を経て豊かな国となりました。しかし，その結果，肥満，糖尿病，メタボリック症候群，心臓病，脳卒中，がんなどの生活習慣病が増加しました。また，国民皆保険制度が導入されて，国民すべてが平等に一定水準以上の医療を受けられるようになりましたが，その結果として医療費も増加しており，対策が求められています。長寿は幸福なことですが，認知症も増加しています。さらにはグローバル化によって，健康問題の解決に国境を超えた協力が必要となっています。

本学の社会医学系の講座では，時代によって変化する社会医学的な課題に対して，富山県や各種団体と連携・協働しながら，調査・研究の実施や施策立案への協力等を通じて社会に貢献をしています。

小児保健領域

小児保健領域の調査・研究としては，富山県を含む全国 15 の地域で約 10 万人を対象とした「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を実施しています。この調査は，子どもをとりまく環境要因が，子どもの健康や発育に及ぼす影響を明らかにするために行うものです。近年，アトピーやぜん息の子ども達が増えていますが，原因を明らかにしない限り，症状を緩和することはできても，根本的な対策をたてることはできません。体に良くない環境要因が明らかになれば，健やかに育つ環境を整備するために役立てることができます。

また，子どもを対象とした対象者数が１万人規模の調査を複数行っており，睡眠不足が小児生活習慣病のリスクとなることや，インターネット依存の実態，望ましい生活習慣を持つ子どもの社会経済環境や家庭環境を明らかにしました。

これらの調査結果は，学校保健施策等を介して，子どもの健康づくりに役立てられています。

エコチル調査サマーフェスタ

成人保健領域

成人保健領域の調査・研究としては，約５千人の地方公務員を対象として，心理社会的ストレスやワークライフバランスの心身への影響を調査しています。この研究は，英国のロンドン大学ユニバーシティ・カレッジおよびフィンランドのヘルシンキ大学との国際共同研究です。

その結果，日本の労働者は，労働時間が長く，ワークライフバランスが悪いことがわかり，それが日本の労働者の睡眠やメンタルヘルスに悪影響があることが分かりました。日本，英国，フィンランドという国家の体制や保健医療システムの異なる国を比較して類似点や相違点を明らかにすることで，それぞれの国の特徴がよく分かり，疾病対策につなげやすくなります。

高齢者保健領域

高齢者保健領域では，約 1.3 千人の富山県の高齢者を対象とした調査において，短い教育歴や肉体労働の職歴，糖尿病などの生活習慣病の既往歴が，認知症の発生リスクを高めることを明らかにしました。また，高齢者の歯の喪失は，偏食や少食を介して筋力の低下や虚弱を引き起こして高齢期の生活の質（QOL）を低下させることから，歯の喪失原因を明らかにしたところ，認知症のリスクとほぼ同様の結果となりました。以上から，高齢者の健康を維持するためには，小児期からの一生涯にわたる分野横断的な施策が重要であることが分かりました。

また，看護学科の教員と連携して，人々が住み慣れた地域で人生の最後まで健やかに暮らすための地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。

地域包括ケアシステムに関する研究発表

法医学領域

安全で安心な社会を構築するためには，人々の人権を守るための法医学が重要になります。人の生命は事故や自殺あるいは犯罪によって著しく障害され，また，突然死した場合には犯罪の関与が疑われますが，これらの悲しい出来事は個人を取り巻く生活環境に依存して発生します。そのため，これらのご遺体を解剖し，死因を究明すると共に，犯罪の証拠採取を行っています。これらの資料は刑事責任だけでなく，損害賠償責任の判定をも支えます。また，突然死の原因は病気であることが多く，その死因究明は突然死の予防対策を考える資料提供にもなります。その他，血液型や DNA 型の研究等，現代医学の最先端の研究も行っています。

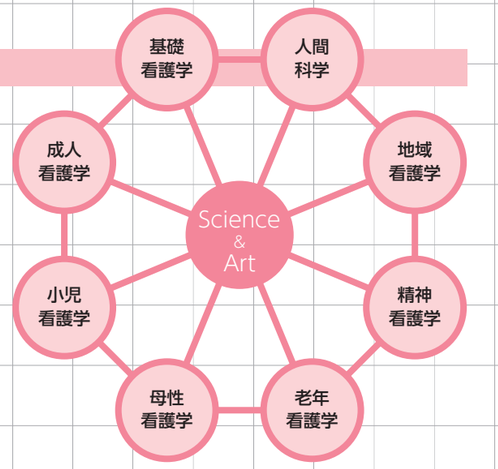
大医は国を癒す

中国古代の医書に「小医は病を癒し，中医は人を癒し，大医は国を癒す」とあります。社会医学は，いわば国を癒す学問であり，「社会の健康」に貢献する学問です。

そのため，社会医学者は，教育機関で教育や研究に従事している人だけではなく，厚生労働省等の行政機関の医師として国民の健康増進に貢献している人も多くいます。さらには世界保健機関（WHO）のような国際機関で活躍している人もいます。

１本１本の木を丁寧にみることとあわせて，森をもみられる医療人の育成に貢献したいと考えています。

看護学の立場から



看護は，ヒューマンケアの理念に基づき，人が人間としての尊厳を維持することを支え，その人らしい健康な生活が送れるように支援することです。臨床看護学では，小児期，成人期，老年期等のライフステージの特徴をもとに，健康ニーズを把握し，疾病予防，その治療とケアを視野に入れた小児看護学，成人看護学，老年看護学，胎児期から生命の誕生の時期に至る妊娠や周産期の支援を学ぶ母性看護学，さらに心の健康に焦点をあてた精神看護学，地域社会・コミュニティを基盤とした地域看護学・在宅看護学から成り立っています。各看護学領域では，健康生活の保持増進や予防の時期，急激な健康破綻と回復の時期，慢性的な健康問題を伴う時期，人生の終末期において，身体の状態を基本としてどういう健康問題があるかを判断し，状態に応じた健康へのアプローチを行うために，講義，演習，実習という形態で，必要な知識と技術，そして健康に携わる者としての仁愛の精神にふさわしい態度を学びます。人間を多角的にとらえ「からだ」「こころ」「くらし」「いのち」４つの側面からアプローチします。

「からだ」を支えたい…

人間は命ある限り，さまざまな病気や予期しない外傷に直面します。医療者としていかに患者様を救うのか，救えるのか，看護師としてしなければいけないことに自信が持てるように学びます。そのためにはまず人間の体の構造を学び，次にどのようにして病気になっていくのか，あるいは外傷を受けた場合はどのような状態になるのかを学びます。そして治療とケアの方法は何かを考えます。医学の授業を多く受けることでその輪郭ができ，実際の臨床の現場で役立つ看護師になれます。そして多職種連携の中で活躍できる医療者を目指します。

「こころ」を支えたい…

基礎看護学では，看護の基礎となる「看護とは」について学び，看護の対象となる人々の生活過程を整える視点を学んでいきます。対象である人間の見つめ方，また看護における病気の見つめ方を学びましょう。本学では，“フロレンス・ナイチンゲール”の「看護覚え書」をもとに学んでいきます。ここには「人の健康について直接責任を負っている者に，考え方のヒントを与えたい」と述べられています。つまり，「看護とは」を学ぶにはヒントをもとにして自分自身が考えていくことを必要とします。次に，基本的な看護技術を学ぶ場では患者に合わせた安全・安楽な援助を修得できるように学生自身が工夫できるような指導を心掛けており，学生の可能性を伸ばしていきたいと思っています。体と同様に心を支える看護観をもとに，それを表現する“技”である看護技術を一人ひとりが統合できる学びを目指しています。そして，その土台を精神看護学ほかすべての臨床看護学領域につなげていきます。

「くらし」を支えたい…

地域では家庭，学校，職場や施設等の場において，乳児から高齢者，健康な方，療養中の方，障がいのある方々が各々のライフサイクル，健康レベル，価値観や健康観に応じて生活をしています。地域看護学では，個々の多様性・個別性を重視した上で「人々がQOLを保ち生活をする」を目標に，コミュニティの健康課題の決定，当事者・家族自身による課題解決と支援の在り方を理解し，看護職に必要な理念や知識，技術を学習します。県・市町村の行政機関，訪問看護ステーションなどの協力も得て，疾病予防・健康増進に取り組むための個別・集団支援，継続看護，多職種連携，地区組織やボランティアの育成と協働，地域包括ケアシステムの構築について学びます。これが，看護学の基盤に立った活動とその人らしい生活を支えるケアにつながり，すべての看護活動領域での実践に基づく看護の創造を可能とします。

そして，「いのち」をつなぎたい…

人は命を次世代につなぐため，子どもを産み育てるという営みを続けています。母性看護学では，そのことを中心に女性の一生を通した健康支援の方法について学びます。女性が妊娠し，出産を経て子どもを育てるプロセスにおいて，母子の身体的健康はもちろん，母子の愛着形成も欠かすことができません。母子がより健康に過ごすための情緒的支援についても学習します。また近年の社会では，晩婚化に伴う高齢初産の増加，産科合併症の比率の上昇，不妊症，不育症などの健康問題や人工妊娠中絶，出生前診断，乳児虐待など生命や人権にかかわる倫理的問題も生じています。また月経前症候群，子宮内膜症，子宮がんなど女性特有の症状や病気で苦しむ若い世代も増えてきています。このような背景から，女性が自分自身の体を知り，生き生きと過ごすための支援に関しても学びます。助産学では，母子とその家族にとって生命の誕生という感動的な出会いを支援するため，母性看護学の知識を基にすべての妊産褥婦とその児に対して科学的根拠に基づいたケアの提供を目標として，専門性の高い知識と技術を学びます。

富山から世界へ 医療人材の育成と 安心できるチーム医療の提供

富山大学附属病院 病院長
林　　篤志

1）富山の医療を支える最後の砦として

本院は主に重症の患者さんに先端医療を提供する特定機能病院です。患者さんの命を救う革新的な治療法の研究や医療人育成に取り組む医学部を中心に，薬学部，工学部などの学部とも連携しながら患者さんによりよい医療を提供するため日夜努力しています。

特に，高度な医療を必要とする患者さんの治療に関しては，地域の病院や診療所と緊密に連携し，富山の医療を支える最後の砦としての役割を担っています。そのため，医師をはじめ多職種の優秀なスタッフが協力して患者さんの治療に取り組むとともに最新の医療機器や設備の導入に努めています。

2）未来を担う医師を育てる環境

医学部４年次になると全国共用試験のCBTとOSCEに合格してstudent doctorとして臨床実習を開始します。そして医師国家試験に合格後，晴れて初期臨床研修医としてスタートすることになります。附属病院だけでなく県内，全国の連携病院での研修も受けられる優れた研修プログラムを用意していますので，できるだけ多くの富山大学の卒業生に附属病院の初期臨床研修医になってもらいたいと思います。卒後臨床研修センターで初期臨床研修医と専攻医の皆さんの面倒をしっかりみていますので，安心してください。特に初期臨床研修医にはメンターとして先輩医師があらゆる相談にのってくれます。初期研修が終わると各自が目指す専門医になるための研修が始まります。附属病院には19基本領域すべてが揃っています。富山大学で自分の希望する専門医を選ぶことができ，皆さんのなりたい医師になることができるのです。

充実した研修を行えるようサポートしています

富山大学附属病院の特徴

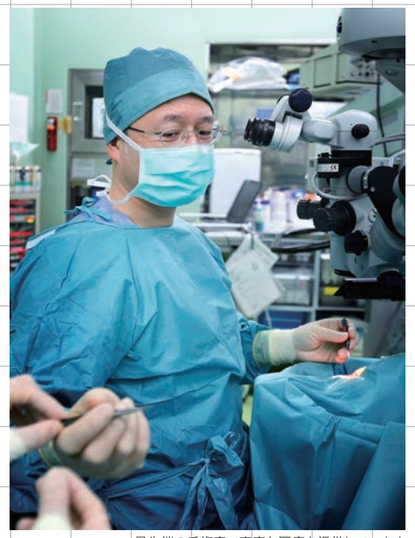
- 特定機能病院
- がんゲノム医療連携病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 災害拠点病院（基幹）
- 難病診療連携拠点病院
- アレルギー疾患医療拠点病院
- がん診療人材育成拠点病院
- エイズ拠点病院
- 第２種感染症指定医療機関

未来を担う医師を育てる環境

- 富山から世界へ，地域へ
- 各自が思い描く医師になるためのキャリアパスのサポート体制
- 優れた研修プログラムと全基本領域の専攻医養成プログラム

地域に根ざした大学病院

- 県内唯一の医育機関であり，すべての専攻医養成が可能
- 地域医療に必要な医療人材の育成とチーム医療の実践



最先端の手術室で高度な医療を提供しています

3）地域医療を支える大学病院

医学部の地域枠で入学した学生諸君は，富山県の地域医療に貢献する意思をもち，その意思を実現できるよう医学部１年次から将来へむけての相談を始めます。附属病院は富山県の医療の最後の砦であるとともに富山県の地域医療に必要な医療人材の育成を担う機関です。

今年５月には，第２種感染症指定病院に指定されました。感染症科もあり，県内の感染症治療の司令塔となって活躍する病院です。附属病院で行っている先端医療を一部ご紹介すると，循環器センターでは小児心臓外科手術を多数行っており，日本のトップ施設です。また，補助人工心臓を扱えるのは北陸で当院のみです。包括的脳卒中センターでは24時間体制ですべての脳卒中治療を担っています。膵臓・胆道センターには，全国から膵臓がんの治療と胆道内視鏡治療のため，多くの方が紹介されてくる日本のトップ施設です。附属病院では，糖尿病センターはじめすべての診療科で先端医療を実施しています。臨床研究管理センターでは医師主導治験などの臨床研究を行い，医学の進歩に貢献しています。これらの先端医療は，医師だけでなく薬剤師，看護師，医療スタッフ全員で協力してこそ成しえるものであり，すべての医療人材の育成が必要です。

さらに，これからの富山県の医療では慢性期医療，在宅医療の需要が高まります。それらを担う医療人材も育成し，今後とも附属病院は地域医療を支える役割を果たしていきます。

先輩からのメッセージ　医学科

AMAZING TOYAMA

富山大学附属病院
小児科　講師
種市　尋宙
（1998 年 卒業）

みなさんはどんな医師になりたいと思って，今この文章を読まれていますか？富山大学医学部出身者の中には，ドクターヘリに乗って現場に登場する医師もいれば，離島，過疎地で地域に従事する医師もいます。発展途上国で保健医療に従事する医師もいれば，基礎研究で世界をリードする医師もいます。様々な医師像があり，その思いに応えるために医学教育があります。では，富山大学ではどんな医学教育をしているのか，きっと興味があることと思います。一例になりますが，私も一教員として，医学生に講義を行っています。テーマは専門である小児救急や子どもの命を考える小児生命倫理です。子どもは元気であるのが当然なのですが，それが当然ではない世界が小児科医の世界です。子どもを救うというのは一体どういうことなのか，子どもの死に立ち会い，それをどう受け止め，家族へ対応するべきなのか，とても難しい話ですが講義で学生たちに問いかけ，考えて議論をし，まとめてもらっています。それらを見ていて富山大学の学生は大変頼もしいと感じています。ただし，勘違いをしないでほしいと思っていることは，与えられたものだけで成長する幅と，自ら学ぼうとすることで成長する幅というのは明らかに異なるということです。われわれはあくまで自ら学ぶきっかけを与えるだけです。多くの熱意ある教員たちが講義という形できっかけは与えますが，その先は学ぶ側の責任でもあります。医学部に入ることが目標にならないよう，今から漠然とした像で構わないので,医師像を持っておくことが重要です。目標を持って自ら研鑽する姿勢を持っていれば，その像を作り上げるためのきっかけはここ富山大学にたくさんあるはずです。一般的な医学教育以外のプログラムも多数整備され，基礎配属という基礎研究体験期間もあり，学年が進むと米国など海外の医療機関への実習プログラムも希望者には準備されており，様々な経験ができることと思います。このような取り組みが評価され，2018年3月に当大学の医学教育は「国際基準に適合」と日本医学教育評価機構から認定されました。これは国内で7番目，北陸では初の認定となります。富山大学で富山，日本，そして世界の病める人たちのために役立つ医師を目指しませんか。きっと，予想以上の時間が過ごせるはずです。私は県外出身者ですが，富山の景色と風土に魅了された一人です。晴れた日の立山連峰，雪が降った日の月光で浮かび上がる街並みなど富山の景色は何十年見ていても飽きることがなく，自然の雄大さを感じ，それが人の心を育むと肌で感じられます。そして，この地に住む人々を守りたい，そう思わせてくれる風土があるのです。

富山大学でお待ちしています

医学薬学教育部
東西統合医学専攻
博士課程 3 年（産科婦人科）
森田　恵子
（2012年 卒業）

このパンフレットを手にとっているみなさんは，数ある医学部の中から富山大学への進学を考えてくださっているのだと思うと大変嬉しいです。

私は埼玉県出身で富山には所縁はありませんでしたが，富山大学医学部医学科に合格させてもらい，富山にやってきました。学生時代は運動部と医療系サークルでの活動を盛んに行い，またバックパッカーとして頻繁に海外を旅していました。6年生の選択実習ではドイツで臨床実習を行いました。当時はさほど実感はありませんでしたが，今となっては本当に掛け替えのない経験をできたことを誇りに思います。大学卒業後，初期研修の2年間は富山大学附属病院を基幹として県内外の病院で研鑽を積み，その後東京都内の病院で3年間産婦人科の後期研修を行いました。医者のイメージと言えば，映画やテレビドラマで見るような判断力のあるかっこいい臨床医がすぐに浮かびますが，実際はそんなに華やかな世界ではありません。ガイドラインや過去の報告を元に，今現在自分が直面している患者さんにとってどのような治療がベストであるか，悩むことが多いです。このエビデンスはどこから作られているのだろう，経験的にはこの治療が良さそうだけれど本当にそれでいいのだろうか。日々の臨床の中で湧いてきた疑問への答えを求めるべく大学院への進学を決め，富山大学へ戻ってきました。基礎研究の世界は地味ですが非常に奥が深く，「新しい言語」の習得に似ています。一つのグラフを作るのにこれだけの時間と労力を要するのかと驚くことも多いですが，これまで自分が点で認識していたものが線で繋がり広がっていく感覚は，学問をしていくことの面白さだと感じています。

さて，一度富山を離れて戻ってくると，富山はなんといいところなのでしょう。住みやすさ，ご飯の美味しさはもちろん，教育や臨床，研究のレベルを見ても他大学に引けをとりません。友人や先輩たちと話していても，富山大学で学べたことを誇りだと感じている人が多いです。富山大学だからこそできることがたくさんあり，また富山にいるからできないこともない，という風に感じています。医学部在籍中に基礎研究で学会発表をしたり，海外に臨床留学をすることもできます。アカデミックな面でもプライベートでも，充実した学生生活を送ることができますよ。みなさんぜひ，富山で医学を学びましょう。

富山大学で医学を学ぼう

医学部 医学科 6 年
木村　駿汰
（新潟県・新潟高等学校卒業）

富山大学医学部医学科への進学を考えている皆さん，パンフレットを手に取ってくださりありがとうございます。大学生活について少し紹介したいと思います。

入学するとすぐに早期臨床体験実習があります。これは実際に附属病院での医師の仕事ぶりを間近で見て体験することができます。「自分もこんな医師になりたい」と勉強のモチベーションが上がり，将来像をイメージすることができます。1年生は教養教育科目が中心となります。「医療学入門」という医薬学部合同の科目では，医療人となるためのマインドを学んでいきます。2年生になると本格的に医学を学び始めます。解剖学では，御献体を解剖して人体のその精緻な構造を学んでいきます。また，「和漢医薬学入門」という富山大学ならではの科目もあります。この科目は座学だけでなく，薬用植物園や民族薬物資料館での体験実習を通して和漢薬を学ぶことができる面白い科目です。3，4年生では，循環器や呼吸器といったように，各臓器の病気の診断とその治療の勉強が中心となります。4年生では，病院実習に必要な知識と技能が備わっているかを試すテストがあり，合格すると病院での実習が始まります。5，6年生は附属病院での実習を中心に，希望があれば海外の病院でも実習を行うことができます。図書館はなんと24時間いつでも利用可能で，試験前の強い味方です。他にも，研究医を目指す人に向けて養成プログラムが用意されているなど，皆さんの夢を叶えられる環境が整っています。

富山大学ではクラブ活動も盛んです。私は剣道部と学祭実行委員会と救急医学勉強会の3つに所属しています。剣道部では，夏の大きな大会である西日本医科学生体育大会（西医体）に向けて稽古しています。学祭実行委員会では，3年生の時に委員長を務めさせていただきました。大きなイベントの企画，運営は初めてでしたが良い経験となりました。救急医学勉強会では，ワークショップや勉強会を通して仲間と救急医学の学びを深めています。

もちろん遊びも充実しています。春に浜辺に打ち上げられるホタルイカを見に行ったり，立山登山をしたりと都会ではなかなか味わえない経験を富山ではたくさんすることができます。

私自身県外出身で，他県で一人暮らしをすることに不安はありましたが，富山はとても住みやすく，人にも恵まれて来て良かったと心から思います。皆さんもこの富山の地で，充実した学生生活を送りながら一緒に医学を学びませんか。

入学式

医学薬学祭

卒業式

Campus Scene

先輩からのメッセージ　看護学科

がん看護専門看護師として働く

富山県立中央病院
看護師
加藤　麻衣
（2004 年 3 月卒業）

富山大学では，授業や実習，部活やアルバイトをはじめ多くの学びと経験に出会いました。基礎実習では疾患の基礎を踏まえて患者さんとの接し方や情報収集，看護計画について学びます。領域別実習では，個別性のある看護計画を立案し自分たち看護学生にできる看護実践を学びました。初めはわからないことが多く戸惑い苦労しますが，学内だけでなく病院で先生方にその都度相談することができ指導頂けることは本当に心強く，同じ目標を目指す仲間と一緒に頑張ることができました。

私は卒業後，看護師として就職しました。患者さんを取り巻く状況を丁寧に見つめるという学びは，自分の中で基本の1つとなっています。就職後，看護の仕事において患者さんの病態や今後の生活において課題がたくさんある場面にも出会いました。その問題を少しでも改善できる方法はないか悩み，再び本学大学院に進学し，昨年がん看護専門看護師の資格を取得しました。

富山大学はみなさんの目標をサポートしてくれます。同じ志をもつ友人，支えてくれる先生方，自分の目標や変えがたい経験とたくさんの出会いがまっています。ぜひ富山大学で看護学を学びませんか。

助産師として大学院で学びを深める

医学薬学教育部
看護学科専攻
博士後期課程2年
亀谷　茉里子
（2005 年 3 月卒業）

春，看護学科棟の前は満開の桜並木となります。自然豊かなキャンパスで，実りの多い豊かな大学生活を送ることができたことが昨日のようです。私は本学の助産師養成コースを卒業後，助産師として総合病院にて働き，現在は産後ケア施設で産後のお母様がスムーズに育児できるよう支援しています。その傍ら，大学院博士後期課程にて看護研究を行っています。助産実習では実際に出産の介助も行い，命の誕生の場に立ち合います。出産は神秘的でありまさに感動です。産んだ瞬間の幸福に満ちた母親の顔は何とも言えません。それだけでなく，出産の場面は危険も隣り合わせであり助産師としての責任感や判断力が必要となります。実習は辛く厳しい場面もありますが，現場のスタッフや教員が全力でサポートしてくださり乗り越えることができました。あの頃の頑張りや学びが助産師としての今の自分を支えてくれています。また自分の看護観の礎となりました。“What nursing has to do in either case, is to put the patient in the best condition for nature to act upon him.” ナイチンゲールの言葉です。一人一人人間は違います。看護の対象である患者さんの個別性に合わせて，その方がより良い状態になるよう働きかけるように看護ケアを実践することだと私は解釈しています。現場で看護を実践する中，看護学を深く学びたい，看護実践の基礎となる研究を行いたいという思いから，本学修士課程を経て，現在博士後期課程で研究に取り組んでいます。富山大学の看護学科では，学部から大学院まであなたの「学びたい」を全力で応援してくれます!!

保健師として地域の人々を支える

滑川市役所 産業民生部
福祉介護課
地域包括支援センター
久郷　綾音
（2019 年 3 月卒業）

私は，身近な人の死と誕生を同時期に経験したことで，地域で自分らしく安心して生活していくことを支える保健師の仕事に興味を持ちました。そこで，看護師だけでなく保健師の資格を取得できる富山大学看護学科に入学しました。

看護学科の同期には社会人経験者や専門学校からの編入生など個性も背景も様々な仲間がいました。また看護学科の他，医学科や薬学部も同キャンパスで学んでいます。他学科の学生との交流は学ぶことが多くありました。先生方との距離も近く，進路相談や勉強の相談にも快く応じてくださいました。このユニークで温かい雰囲気のキャンパスで4年間を過ごしたことは，医療従事者としての人間性を磨く上で貴重な体験だったと思います。

卒業後は，地域包括支援センターに配属されました。高齢者を対象とした介護予防事業や認知症関連の施策に携わっています。地域の方々に顔を覚えてもらい，声をかけていただくことが少しずつ増え，やりがいを感じています。勉強の毎日ですが，大学での講義や実習での経験が役に立っていると思います。

富山大学は，看護師・保健師・助産師の国家試験受験資格を取得できるため，皆さんの夢をきっと後押ししてくれますし，広く選択肢があることはきっと役に立つことでしょう。皆さんも富山大学で実り多い4年間を過ごし夢に向かって頑張ってください。

富山大学で看護学を学ぶ

医学部 看護学科 4 年
青山　裕紀
（富山県・雄山高等学校卒業）

私が看護師を目指したのは小学生の時です。医療を学ぶ合宿に参加し，苦しむ人の支えになり頼られる看護師になりたいと思いました。高校生になり様々な大学を調べるうちに，4年間で看護師だけでなく保健師と助産師，養護教諭二種の受験資格が取れる点，看護学科で漢方など東洋医学について学べる点に魅力を感じ，富山大学に入学することを決めました。

入学後は1年次に一般教養科目や患者の疾患を理解する上で必要な人体の構造や機能を学び，2年次では1年次での学びを活かし，疾患や看護技術，医薬合同で漢方を学びます。3年次には看護学がより専門的な内容になり保健師の講義も始まります。4年次には臨地実習が始まり，実際に患者さんや地域に住む人と触れ合い，これまで学習したことを活かします。

杉谷キャンパスは医学部と薬学部が1年次から一緒に学ぶ環境が整っており，互いに高め合うことが出来ます。そして，図書館は医療系の書籍が充実しており，学習を深めたり，レポートのために調べ物をしたり，非常に便利です。また，この図書館は24時間利用可能なため，時間を気にせずに学習に取り組むことが出来ます。大学生活は高校までと違い，自由な時間が増えますが充実させるためには自身で時間の使い方を考え，空いている時間を自己学習に充てたり，部活動に励んだり，アルバイトしたり有効に使っています。

私は富山大学で充実した楽しい大学生活を送っています。皆さんも富山大学で自分を高め，充実したキャンパスライフを送りましょう！

Campus Scene

オープンキャンパス

母性看護学実習

学内演習

総合実習

令和２年度入学状況

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	入学者内訳			
					男子	女子	現役	既卒等
医学科	105	616	106	105	54	51	49	56
看護学科	80	208	89	80	7	73	69	11

令和３年度入試情報

※新型コロナウイルスの感染拡大等の不測の事態により，内容は変更する場合がありますので，詳しくは最新の募集要項でご確認ください

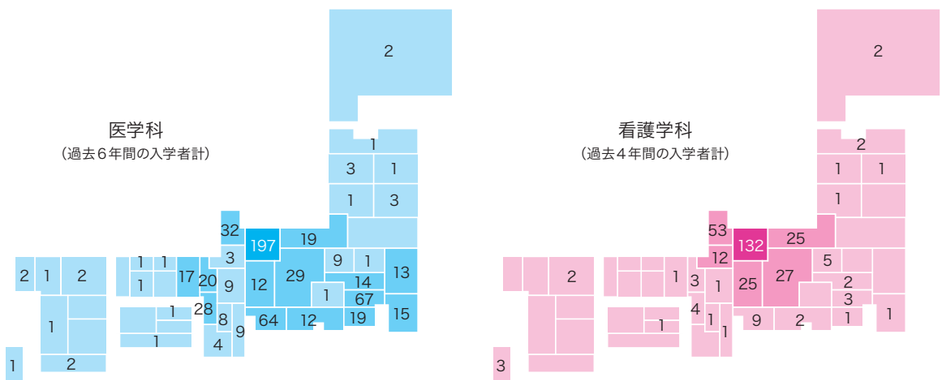
募集人員

	一般選抜		特別入試					私費外国人留学生入試	計	編入学試験
	前期日程	後期日程	学校推薦型選抜Ⅱ	学校推薦型選抜Ⅱ「地域枠」	自己推薦入試「富山県特別枠」	帰国生徒入試	社会人入試			
医学科	60	20	—	15	10	若干名	—	若干名	105	5（第2年次）
看護学科	50	10	20	—	—	若干名	若干名	若干名	80	10（第3年次）

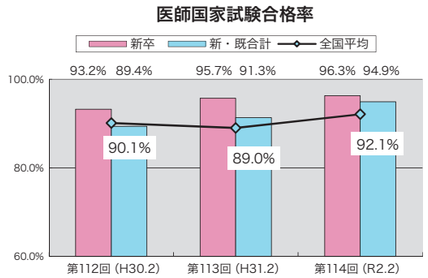
入試日程

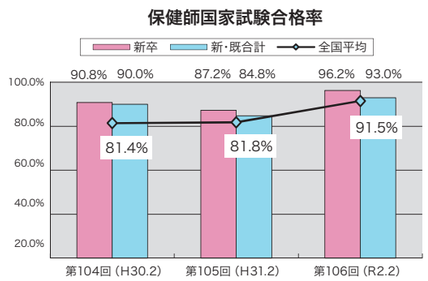
	入試区分	出願期間	試験	合格発表	入学手続締切
医学科	一般選抜（前期日程）	1/25（月）～2/3（水）	2/25（木）・26（金）	3/8（月）	3/15（月）
	一般選抜（後期日程）		3/12（金）・13（土）	3/21（日）	3/27（土）
	特別入試（学校推薦型選抜Ⅱ「地域枠」）	11/20（金）～11/27（金）	12/21（月）	2/8（月）	2/17（水）
	特別入試（自己推薦入試「富山県特別枠」）				
	特別入試（帰国生徒入試）	1/25（月）～2/3（水）	2/25（木）・26（金）	3/8（月）	3/15（月）
	私費外国人留学生入試	1/21（木）～1/26（火）	2/25（木）		
	編入学試験（第２年次）	4/6（月）～4/10（金）	5/17（日）	第１次：6/12（金） 第２次：7/28（火）	8/5（水）
看護学科	一般選抜（前期日程）	1/25（月）～2/3（水）	2/25（木）	3/8（月）	3/15（月）
	一般選抜（後期日程）		3/12（金）	3/21（日）	3/27（土）
	特別入試（学校推薦型選抜Ⅱ）	11/20（金）～11/27（金）	12/14（月）	2/8（月）	2/17（水）
	特別入試（帰国生徒入試）			12/25（金）	
	特別入試（社会人入試）				
	私費外国人留学生入試	1/21（木）～1/26（火）	2/25（木）	3/8（月）	3/15（月）
	編入学試験（第３年次）	7/6（月）～7/10（金）	8/3（月）	8/28（金）	9/4（金）
大学入学共通テスト		試験：1/16（土）・17（日）			

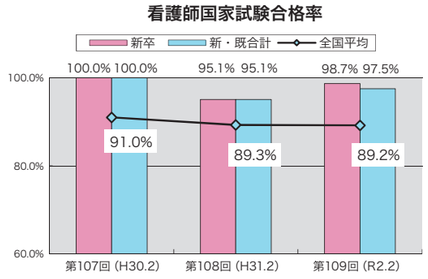
医学部入学者の出身地分布

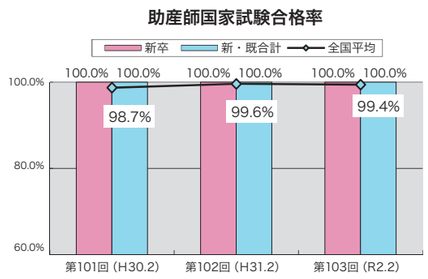


国家試験合格状況（過去３年）

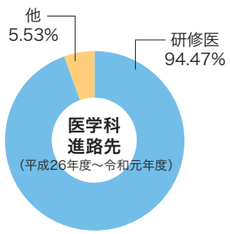




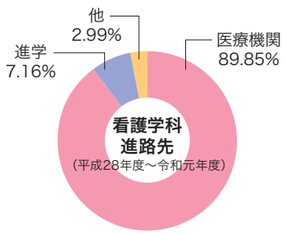




医学部卒業者の進路状況

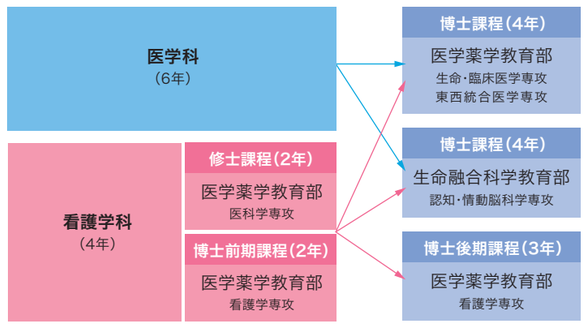


«主な卒後臨床研修病院»
【富山県内】
富山大学附属病院，富山県立中央病院，富山赤十字病院，市立砺波総合病院，厚生連高岡病院　など
【富山県外】
新潟大学医歯学総合病院，東北大学病院，東京医科歯科大学医学部附属病院，千葉大学医学部附属病院，筑波大学附属病院，京都大学医学部附属病院　など



«主な就職先»
【富山県内】
富山大学附属病院，富山県済生会高岡病院，富山赤十字病院，市立砺波総合病院，富山市役所など
【富山県外】
福井大学医学部附属病院，岡山大学病院，金沢市役所　など

大学院の構成



募集人員

修士課程	
医科学専攻	15人

博士前期課程	
看護学専攻	16人

博士後期課程	
看護学専攻	3人

博士課程	
生命・臨床医学専攻	18人
東西統合医学専攻	7人
認知・情動脳科学専攻	9人